

馬毛島問題に関する学習講演会が開催され、基地問題を抱える町の現状について説明等がありましたので、お知らせします。

7月6日(水) 講師 田村順玄 山口県岩国市議会議員

岩国市にある岩国基地は、沖縄以外では唯一の海兵隊の航空基地であり、昨年5月、施設を1キロメートル沖合に移設する事業が完成し、780万平方メートルという広大な米海兵隊施設となりました。

1.4倍に広がった岩国基地に、原子力空母の艦載機を常駐する厚木基地から移転させる方針が決定されましたが、その手法は、最後の最後に一方的に通告してくるといった、今回の馬毛島に対する防衛省のやり方と全く同様の手口だったそうです。

岩国でも、「アメとムチ」の「アメ」で容認する市民を増やし、じわじわ攻めてくる手法を使ったことが説明されました。また、その「アメとムチ」により市政が混乱し、停滞した事実も話されました。

「アメ」は、市民に還元されることはなく、ゼネコンや一部の利権屋だけが潤い、今後も市民への負担は重く、問題は続くと話されました。

馬毛島に移転が検討されている「FCLP 訓練」の騒音は田村市議も、非常に過激だと説明し、また米軍は一旦受入を行うと、さまざまな展開が予想され、将来の拡大が危惧されると説明しました。

また、田村さんは、FCLP 訓練移設の受入を阻止するためには、「反対運動の継続が一番大事である。」と強調されました。

8月11日(木) 講師 金子ときお 神奈川県相模原市議会議員

相模原市内には、3つの米軍関連施設があり、また厚木基地にも隣接していることから、厚木基地による騒音被害等について説明がされました。

厚木基地周辺の住民は、あまりの騒音のひどさに、50年前に「静かな空を返せ」を合言葉に、「厚木基地爆音防止期成同盟」を結成しました。その騒音はあまりにもひどく、厚木基地周辺では騒音ではなく、爆音と呼び、反対運動を続けています。

厚木基地周辺では、13キロメートル以上離れた場所でもその騒音はひどく、その影響は国も認めているといい、防衛省から協議会へされた馬毛島から12キロメートル離れた種子島では騒音はひどくないとの説明とは全く違った話がされました。

騒音については、 軍用機は、民間機とは違い軍事機能が優先され、低騒音や安全性が義務化されていない。 軍用機は低空で旋回するので騒音が大きい。 FCLPは8機で訓練を行うため、離着陸を行っている訓練機以外の待機する訓練機等も多く、継続して騒音が続くといった説明がありました。

また、基地交付金(固定資産税の代替)については、予算により配分されるため、相模原市では評価額の3分の1程度しか交付されていない現状が説明され、現在、一部で報道された基地再編交付金についても、予算等を考えると報道されている金額が大きすぎると話されました。

また、金子さんも「一度基地にしてしまうと、次から次へと強化されていく。」と説明されました。

どちらの講師の方も、「一度受け入れると米軍は拡大する」と話されました。

しかも、恒久的な施設ということですから、わたしたちの子や孫の世代へもその問題は受け継がれることになります。

#### 【新聞報道等から】

##### 訓練期間について

防衛省は協議会に対し、「FCLP(陸上空母離着陸訓練)は、年に2~3回。1回に10日程度です。年間で30日程度しか訓練は行いません。」と説明を行いました。しかし、先日の新聞紙上では、事前訓練を含めて1回の訓練で30日程度行うことを検討中であると報道されました。年間で90日にもなります。

##### 漁業者への説明について

「FCLPによる漁業制限は予定していません。」と漁業関係者に説明を行っています。

訓練中は上空約183メートル(600フィート)を上限として艦載機が飛行するそうです。そのような危険で騒音がひどい訓練中に漁業者は安全な操業ができるでしょうか。漁業制限を行わないため漁業補償もないということだそうです。

防衛省側から協議会に説明があったあと、たった2ヶ月の間ですでに負担は大きくなろうとしています。